

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195300207		
法人名	株式会社 ハンループ		
事業所名	グループホーム あとれ		
所在地	北海道網走市呼人519番地17		
自己評価作成日	令和3年10月8日	評価結果市町村受理日	令和3年12月16日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL mhlw.go.jp/stf/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0195300207-00&SeqNo=1

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・入居者さんを楽しくさせるよう、職員は模索をして、入居者さんと職員は笑顔ある楽しく生活できるよう支援しています。入居者さん、家族様、職員と何かあれば連携を取り合っており、気軽に相談できる関係作りが出来ています。職員から、管理者に相談を持ち掛け、入居者さんの希望に沿ったことをさせたいと言われ、可能な限り外出支援や、レク等を行い日々の生活が充実したものであるよう支援しています。
- ・入居者さんの急変時、職員は迅速に対応し、入居者様、家族様と連携を図り、必要なら受診したり家族様から感謝の言葉を頂いたりしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームあとれは網走市呼人地区の閑静な住宅街に位置する2階建て2ユニットで運営しています。基本理念に加えて、開設当初の全職員で考案した理念「笑顔で穏やかな生活が送れるよう支援します」を職員は意識のもと、利用者だけではなく、共に笑顔でいるよう努めています。今年度から支持母体が変わり、外部研修が参加しやすくなり、参加した職員が内部研修に発表・報告をする形を取って、職員の主体を促しています。また、個人面談が実施され、職員の意識改革がなされ、以前より管理者のまず“やってみよう”的精神が活かされ、利用者の生活維持や楽しみが増えるよう積極的な意見が増え、失敗を恐れず実施に向け取り組み、成果や検証がなされ、運営向上へと繋がっています。職員は笑顔で接し笑い声が絶えず日々の生活をゆったりと自己のペースで出来る事を支援し、レクレーションやタブレットのゲーム、読書をするなど銘々好きなことを行い過ごし、日常的に外気浴・散歩等で楽しく気分転換を図り体力維持に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で項目の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいく (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある <input checked="" type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のよう 2. 数日に1回程度 3. たまに <input checked="" type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている <input checked="" type="radio"/> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は見えるとこに掲示されていますが、理念に基づいた支援は出来ていないと思われる。	基本理念の他に開設当初職員と一緒に考えた目標があります。理念は職員が振り返ることができる場所に掲示しています。管理者は利用者に不適切対応がある場合は、職員に指導を行い、ケア向上に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの関係で、地域交流は持てていない。	以前は、地域の祭りやボランティアの受け入れなど積極的に交流が図られていましたが、現在はコロナ禍で交流はできません。地域の活動や情報は事業所の通信を町内会長に持参する際に情報を共有しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会長、民生委員とは連携を図り、運営推進会議の資料の配布、情報交換を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	各関係機関に資料を配布することで、当施設の情報を周知し、2カ月に1回運営推進会議を行っている。	運営推進会議は文書で報告をする形式で状況報告、行事報告、事故報告、感染症対策の取り組み等の内容で委員に配布しています。運営推進会議の議事録は家族に送付しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市とは密に連携を図り、何かあれば情報を頂き、職員等に情報を提供している。	市の担当者に運営推進会議に参加して頂くなど情報を共有化し、アドバイスなど受け良好な関係構築がなされています。地域包括支援センターとは事業所へ意見など頂きながら運営向上や連携を図っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3カ月に1回、身体拘束虐待防止委員会を開催し、身体拘束をしないケアの実践を行っている。	身体拘束虐待防止委員会は、身体拘束の弊害について職員に周知しており、特にスピーチロックに関して、利用者へ不適切な対応がある場合は、管理者はその都度職員に指導を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	3カ月に1回、身体拘束虐待防止委員会を開催し、虐待防止をしないケアの実践に取り組んでいるが、声掛けが荒かつたりする場面がある。今後は勉強会の開催を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、成年後見人制度の研修を受講しており、入居者様に対して、生活保護の方の対応を行っているが、職員は研修等に参加していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前に契約を行い、説明し同意を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話等で連絡を行い、疑問点があれば聞き取りを行い、運営に反映している。	面会禁止や面会制限の中で、敷地内でプレハブを設置し、面会を実施するなどの中でも、要望を把握しています。また、利用者の必需品を家族が届ける際や医療機関の受診後の聞き取り、電話連絡で、家族の意見や要望を聞き取り、回覧で職員に情報を共有し運営に反映するように努めています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	今年度から、施設長が変わり、個人面談を行い、意見や要望を聞き取り、運営に反映している。	法人代表が変わり、職員の個人面談が実施されています。また、定期的な内部研修を行い、必要に応じ外部研修に参加、伝達研修を通してケアの向上に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を行い、労働時間や給与面、介護に対する疑問点の解決方法を見出し、環境整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	オンライン研修や全体ミーティングによる内部研修行い、学ぶ機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前はグループホーム部会の開催で同業者との交流する機会は設けていたが、現状コロナウイルスの関係で、勉強会等の開催は行われていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人様と面談を行い、入居前に不安や要望等を聞き取り、在宅での生活の延長線上となるよう支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族様とも面談を行い、入居前に不安や要望等を聞き取り、支援に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様から不安や要望を聞き取り、また施設見学をして頂き、入居時ケアプランを作成し、現状必要なサービスを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の意向に沿ったサービスを提供し、訴えがあれば話を傾聴し、関係作りを行い、されるではなく、して頂くことを前提として関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの関係で、面会等は現状できていないが、電話や手紙等で関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの関係で、面会制限があり、現状できていないが、手紙等のやり取りをされている入居者さんがいる。	馴染みの美容室や知人の面会も条件がクリアされた方が面会に来ています。電話や手紙など現在も継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えやユニット間で行き来する場面を作ったり、アセスメントすることで状況を把握し、支えあう関係作りは行えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、家族様から差し入れ等を頂いたり、相談にのって頂きたいと言われる方もいて、助言等を行っている。		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23 9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人一人の意向や相談があり、どのように暮らしたいか要望を聞ける方には聞き取り、その人らしい生活が送れるよう支援している。	入居時のアセスメントや家族からの情報を把握し、日頃の会話や利用者の表情から、その日その時の気持を汲み取り、日頃から本人本位の支援に努めています。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	昔の既往歴等把握したり、本人様、家族様から情報を頂き、共有することで、把握している。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の出来事を介護記録や申し送り、引継ぎを行うことで情報共有をし、現状の把握に努めている。		
26 10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方にについて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議やミーティング、家族様が来訪時など、意見交換や情報を共有し、現状必要なことを介護計画に反映されている。	基本6ヶ月に1度見直しを行っています。月1回のユニット毎の会議では、カンファレンスを中心に利用者の状況や改善点を話し合い、モニタリング、医療機関、利用者家族の要望・意見を聞き取り、利用者本位になるように計画を作成しています。	利用者の日々のより良い生活を維持するため、生活・介護日誌に介護計画へ反映が出来るよう職員が一目で達成度が把握できるような工夫を期待しています。
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付きがあれば、介護記録に記入、または申し送りで状態の変化等あれば記入し、身体機能や認知機能等の変化があれば即座に対応し、介護計画の見直しをしている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様や家族様から要望があれば、既存にとらわれないサービスを実践している。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルスの関係で、地域資源を生かされておらず、ボランティアさん等の来訪がない。		
30 11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、家族様対応で受診をして頂き、対応が難しい家族様に関しては訪問診療で対応し、変化があれば家族様に報告をしている。かかりつけ医と密に連携を図り、関係作りに努めている。	利用者、家族の希望するかかりつけ医への受診は家族が対応し、訪問診療を利用されている方もいます。月1回の訪問看護、個人的に訪問看護と契約されている利用者もおり、連携を取りながら健康管理が行われ利用者、家族の安心に繋げています。薬のセット、服薬チェック表でダブルチェックをすることで誤薬の無い介助に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護、個人契約されている訪問看護で、看護職員と密に連携を図り、日々の変化を伝達し助言等を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関から入院時の状況を伝えて頂き常に連携を図っている。退院時は職員、家族様、医療機関と面談を行い、現状を報告し、情報を共有し退院に向けた受け入れ態勢を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について意見交換等を行ったが、実践していない。今後は研修や勉強会等を開催し、終末期で対応できる体制作りを行う。	入居時に重度化した場合における対応及び看取りに関する指針で利用者、家族に説明し内容について十分な説明を受け理解した旨、事業所が出来ることを伝え同意書を得ています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時は迅速に対応できているが、全職員が対応できていないので、今後は全職員が対応できるよう訓練や研修等の参加機会を設ける。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の自衛消防訓練を行い、日中、夜間時の訓練を実施している。今年度は地域の参加はなかった。	今年、8月に夜間想定で自主訓練を行い、3月に火災避難訓練を実施する予定となっています。停電時に際しての発電機、食糧や衛生用品など備えています。	年2回の火災避難訓練を実施していますが、地域住民の参加が得られていない状況となっています。避難訓練への地域住民の参加と具体的な役割を明確にする取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体拘束・虐待防止委員会で声掛けに関して何度も議題が上がっている。人格を尊重した声掛けができるない。今後は研修会等の開催を設けるべきである。	利用者の尊厳を傷つけないように命令口調や静止、抑制することのないように心掛けています。呼称はさん付けが基本ですが、信頼関係を築いたうえで家族の了承を得て愛称で呼ぶ方もいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人様の思いや希望を聞き取り、スタッフ間で情報を把握し、自己決定できるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	極力入居者さんのペースに合わせた支援をしているが、状況によっては職員のペースで支援している場面もみられる。		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服用、髪型等、季節に合った物を選び、自立されている方は、好みの服を着られたりしている。		
40 15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現状外食は難しいが、行事食を提供したり、入居者さんの好みに合わせた食事の提供をしている。またお手伝いを行ってくれる入居者さんもいる。	利用者の好み、希望を取り入れ献立係の職員がメニューを作成し、下拵えや後片付けなど利用者は出来ることをしています。行事食や誕生日ではノンアルコールを嗜みパーティーをしたりと職員と一緒に食卓を囲み楽しい食事になるよう行っています。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状況に合わせて、水分チェックや食事量の調整、献立の作成時、栄養バランスを考慮し提供している。		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科と提供があり、義歯の調整や、助言を頂き、個々の口腔内の状態を把握している。		
43 16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	可能な限り、トイレで排泄して頂くよう支援している。ケアプランにも反映されている。	利用者の排泄パターンを把握し、表情や行動を見過ごすことのないよう声掛け誘導で出来るだけトイレでの排泄を支援しています。夜間は安全を考慮しポータブルトイレを使用している方もあります。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を確認し、下剤調整を行っており、便秘気味の入居者さんは、担当医に相談を行っている。		
45 17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は問わず、入浴支援に努めているが、こここの希望に沿った支援は難しいのが現状である。	週2回を基本に利用者の体調、状態を考慮し2人介助や清拭、シャワー浴などの対応で入浴出来るよう行っています。談笑したりと信頼関係を築く場となっています。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調管理を行い、入居者さんの状態を見極め、休息を勧めたりしている。昼夜逆転気味の入居者さんは、声掛けしレク活動等を行い睡眠リズムを整えている。		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を確認し、薬の状況を確認し、どのような薬を飲んでいるか把握している。薬に変化があれば、伝達し、状態の変化に注意している。		

自己評価 外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人様の既往歴やお話しながら聞き取り、お手伝いやレク等、楽しく過ごして頂けるよう支援している。		
49 18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り、ドライブや天気の良い日は散歩したり、玄関前でお茶を飲んだり、ストレスを抱えないよう支援している。	天気の良い日には事業所前の芝生でお茶をしたり近くの美容室へ行ったり、ドライブでは芝桜や水芭蕉などを観賞したり、自宅に帰り家族と食事をしたりと気分転換を図っています。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナウイルスの関係で、本人様と一緒に買い物をする機会はないが、訴えがあれば、職員が代わりに買い物したり支援している。		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様に電話をしたいと言われたら、電話をしたり、手紙が来たら、読んだりしている。		
52 19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるような空間作りや、一緒に飾り物をすることで、季節感を感じてもらうようしている。	共用空間は季節の毎の飾りつけや行事の飾りを職員と一緒に作成され装飾がされています。温湿度に気を付け空調管理で過ごしやすい環境作りを心掛けています。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地の良い空間作りをに努めている。一人にならないよう、入居者さん同士の交流のために席替えしたり、楽しく会話ができるよう、職員も間に入ったりしている。		
54 20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持って来て頂くことで、自宅の延長線上になるよう、安心して生活して頂くよう、努めている。	居室にはかぞくの写真や好きな芸能人のポスターを貼ったり、タブレットで麻雀ゲームをやつたり携帯を持ち家族や友人と連絡を取り合うなど今までの生活が継続できるよう支援しています。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	限られた空間の中で、歩行が不安定の方は手すりに掴まり歩かれたり、場所がわからない方は、居室に名前を付けたり、トイレ等がわかるよう工夫している。		